

「本栖湖クリーンアップ活動」におけるまちづくり



富士河口湖町 地域おこし協力隊

中原 崇

◆活動の紹介

毎年6月の第1土曜日に開催されている、ボランティア主体による本栖湖の清掃活動「本栖湖クリーンアップ」の活動をご紹介します。

- 本栖湖の住民と本栖湖でウィンドサーフィンやキャンプを楽しむ方々との会話から活動がスタートした。
- 本栖湖畔にて商売を営むドライブイン、売店、民宿、ペンション等が集まり結成されたまちづくりの組織「本栖湖を愛する会」と、本栖湖でダイビングショップを営む「MOTOSUKO DIVE RESORT」が主催として、2002年から開催されている。(14回開催)
- NPO JCUE(日本安全潜水教育協会)、本栖子供クラブの協力、本栖湖観光協会、本栖湖漁業協同組合本栖湖、本栖湖西部観光協会、富士河口湖町などが後援している。
- 富士河口湖町の補助金を利用し、ダイビングのタンクを無料で貸し出している。

◆活動の紹介②

- 14回目である昨年の開催には、地元からの参加スタッフ13名ですが、その他230名の参加者が集まり、年々増えていることで、活動が周知されてきている。
- 成功の要因としては、開催日時を固定し、続けてきたことで、予定を入れてくれる、参加者が参加者を呼んできてくれるなどがあげられた。



- 活動の今後の展開としては、この活動をもっと多くの方に知ってもらい、参加者、協賛を増やしていくこと

【現状の課題】

ゴミを拾うことはできるが、自然公園法などにより、「無駄で、邪魔な草木でも切れない」という現状が、ネックになっている。

◆現状の課題に対する提案

本栖湖の自然や環境を維持していく上で、行政と地域住民による「話し合い」の場を設けていくことはできないだろうか？

「景観として、自然のままが良い」とされている現状ですが、草木がボウボウに生えてしまっている現状でも良いのだろうか？という課題が残ります。

地元住民の声をまとめ、行政との間に入り、課題解決に向け、活動していくことが私の地域おこし協力隊としての役目だと思っております。

